

其の基礎の脆弱の故に恐慌の危険を一身に担はせしめ、
 日本資本主義は國家資本を支柱として、其の基礎を築いて来た。今や國家財政の破綻と、國家資本涸渇の故に其の支持は崩れんとして居る。
 更に日本資本主義は、半封建的農業を搾取源泉として發展して来た。然るに農産物價格の破局的な暴落と相對的に加重する。致命的な崩壊は農民大衆の極度の飢餓窮乏のどん底に喘いで居る。今や遂に農業は日本資本主義發展の反對物に取化して居る。

日本資本主義は恐慌を切り抜けるがため、再産を理窟の進化膨張の清算を徹底的に遂行せんとする。然るに其の結果は生産力の増大を人為的に制約する事に依り、一般大衆の収奪現象となり、失業者の暴増となり、それが反つて大衆の購買力の喪失を招き、小資本企業の倒産に導いて、恐慌を深め放擲せしめる。金融機構を持つ金融資本の運命に影響する。而もそれを挽回せんとする試みは矛盾を拡大再生産する事に依り將來の危機を一層鋭くする。
 斯くの如く國內市場に行き詰る。日本資本主義は、過剩資本と過剩生産力の掃却口を海外市場に求めんとする。然るに等しく海外市場に求めんとする。列強

との対立と、畏なく乗りぬぐらざるを得る。國境の障壁と、殖民地、半殖民地の資本主義の勃興は、日本資本主義の進出を阻害する。
 特に原料の供給地として、資本並に商品の輸出地として、数多くの特殊權益の保有地を有る、日本資本主義の死活を決しつゝ、あつた滿蒙の最近の状況はアメリカの目覚めを侵入とその背景に立つ南京政府との対立を、克服せしめ、不可避の滿洲國獨立を敢行した。
 而し吾々は滿洲國をして、國民大衆の尊厳、血統を基礎とした權益を資本主義の壟断に任せんとする危險から脱却せしめねばならぬ。斯くて吾々は滿蒙を、獨り占めんとし、進んだ、日本の此の必然的な既決を、当然として迎へる事に何等の躊躇をしない。

吾々は滿洲國をると日本國をるとに囚せず、國家を在異一流の國家自体を階級機關と断定し、一切を抹殺、否定し去らんとする、謀謬と共產主義的追隨運動に断呼として、反對するものであるが一面滿洲獨立に依る、漸定的景氣に依つて、滿洲國の本質と断定し日本の經濟界の正常なる状態を断ずるものではない。むしろ滿洲國が資本主義機構を一時的現象として利用することなく、むしろ其の中核